

兎に角、分會組織の完成に依つて、戦備の第一段はなつたのである。
 候補者の選定に當つても、六區制の存在は甚しき不便を感じしめた。或る選挙區には候補者たるに適當なる人多數在るも、或る選挙區には一人もなしと云ふが如く、尠らず候補者決定への支障となつたのである。
 かゝる形勢の下に、新興無産階級の興望を一身に聚め、普選第一回の逐鹿場裡に登場する榮ある吾等の戦士を決定すべく、吾黨は各分會より二名宛選出せられたる十二名の市會議員候補者銓衡委員會を組織して、再三其の會合を開きて大体の成案を得、更らに之れを四月七日、及び八日の市會対策緊急執行委員會にかけ、審議精駁の結果左の如き候補者の決定を見た。

(定員數)

第一區	濱橋 文作	今岡 與市	九
第二區	松尾 政大		九
第三區	吉田 善次郎		九
第四區	安日 新	横大路 茂	九
第五區	木下 涼	吉永 重藏	七
第六區	島津 重藏		三

別に第二區より立ちたる森下久次郎君に對しても、出来る限りの應援を爲すことにした。

是より先、支部は其の支持団体同志會及び研究會をして、言論戦隊を養成すべく辯論部の猛練習を開始せしめ、刻々に近づく決戦の日に備へしめたのであつた。

四月九日、用意全く成り、一齊に全候補者の届出を済ませ、十六日夜の第二區松尾、第五區吉永候補の政見發表演説會をスタートに愈々乾坤一擲の征途に就いたのである。

今、各派の戦陣を鳥瞰するに、何れも自重して候補者の濫立を嚴に戒め、一が新興階級の氣を負ふて熱血火を吐く言論戦の正攻法に據らんとすれば、他は黄金の撒布と情實、因縁、發應政策を主とする選挙民の弱点を術く潜航運動に全勢力を傾倒し、勝敗の數運かに豫斷を許し難きものがあつた。

立候補數

民	五
政	一
社	一
民	一
憲	一
中	二
立	一
計	六
定員	三
六	六

此の一戦の勝敗、それは當に吾八幡支部興亡の岐るゝ處たるばかりでなく、吾が社会民衆黨が其の掲ぐる現實主義的社會民主主義の旗の下に能く勤勞無産階級を動員し得るや否やを決定する重大なる意義を有つものであつた。
 吾が八幡市は吾國屈指の労働都市である。従つて、吾黨の進出が最も可能なる處である。此の土地に於て、若し敗北するが如きことあらんか、それは疑もなく、北九州は固より全日本の労働都市に於ける敗北を結果するものであらねばならぬ。

而も、無産政黨彈壓の小選挙區制は實施せられて居る。吾黨の敗北は、小選挙區制への敗北である。そしてその結果は、明らかに各都市に於ける無産政黨の進出を恐るゝ既成資本家政黨の小選挙區制の不法實施となるであらう。

吾黨の使命、寔に重大なる哉！

全日本の勤勞無産階級の期待に響く注視と關心は、かくて必然的に八幡市議戦と吾黨の戦況に繋がるゝに到つた。此の重大負託を担ひ、而も大敵を向ふに廻はして、吾支部は一切の作戦計畫と用兵を、九州聯合會に委ね、總司令部及應援本部を八幡市西本町一丁目池田屋旅館に置き、聯合會々長龜井代議士陣頭に起ちて全軍を指揮し、參謀として多年の労働運動及び選挙戦陣に百戦錬磨、機略縱横の聯合會書記長伊藤卯四郎君を配した。

社会民衆黨の旗幟憂色を含む時、全國の闘士陸續として八幡に聚まる。

- 代議士 西尾末廣
- 日本労働連同盟 山口常次郎
- 大阪聯合會 土井直作
- 本部特派員 佐藤三郎
- 神奈川縣聯合會主事 九